

中2	単元名	漢詩の風景 (漢詩・解説)	5時間
単元の目標	1) 漢詩の味わい方を理解し、漢詩への興味・関心を深めさせ、学習の意欲をもたせる。【関心・意欲・態度】 2) 漢詩の内容や表現のしかた、表現の意図などについて、根拠を明確にして自分の考えをまとめさせる。【読む】 3) 漢詩についての基本的な知識を学習し、漢詩特有の言葉遣いやリズムを生かして読み味わわせる。【伝国】 4) 漢詩を読み、詩に表現された情景や古人の心情について考えさせる。【伝国】		
日本語の目標	<ul style="list-style-type: none"> ● 漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして読み味わう。 ● 漢詩に使われている情景を想像し、昔の人の心情や自分の考えを表現する。 		
学習課題	漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして朗読し、詩に表現された情景や心情を想像しよう。		
主な学習活動	1) 漢詩の基礎的な知識を押さえるとともに、特有の言葉遣いやリズムに留意して朗読する。 2) 三編の漢詩に描かれている情景や作者の心情を捉える。 3) 三編の漢詩に描かれた情景や心情について、自分の考えをまとめる。		

学習活動計画

時限	内容	活動	ポイント
1 11/22	学習課題をつかむ。 漢詩の基礎的な知識を押さえる。	単元目標 『漢詩特有の言葉遣いや調子を生かして朗読し、詩に表現された情景や心情を想像しよう』 <本時のめあて> 漢詩の形式や種類を知ろう 1) 学習のねらいをとらえ、漢詩に興味を持つ。 2) 映像や範読から、漢詩の雰囲気をつかむ。 3) 漢詩の形式や種類について知る。 4) 興味を持ったことや知ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、漢文や漢詩と関わることを見つけさせる。 ・漢詩の歴史的背景をイメージさせる。 ・漢詩の形式や種類を理解させる。 ・漢詩への興味や関心を引き出すよう、促していく。
	家庭学習課題	漢詩の形式や種類、漢詩のきまりについて、ノートにまとめる。 ①詩形「絶句」と「律詩」、五言と七言 ②押韻 ③対句	
2 11/22	「春暁」に描かれている情景や作者の心情を捉える。	<本時のめあて> 孟浩然「春暁」を読み解こう 1) 文字数や形式から、「春暁」の構成を知る。 2) 書き下し文と解説文から、漢詩の内容を捉える。 3) 描かれている情景と起承転結を対応させる。 4) 「春暁」を読み、感じたことや知ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「春暁」は五言絶句であることを押さえる。 ・解説文から内容を読み取り、起承転結の構成と主題に気づかせる。
	家庭学習課題	「春暁」の書き下し文を繰り返し音読する。	
3 11/29	「絶句」に描かれている情景や作者の心情を捉える。	<本時のめあて> 杜甫「絶句」を読み解こう 1) 文字数や形式から、「絶句」の構成を知る。 2) 書き下し文と解説文から、漢詩の内容を捉える。 3) 前半の情景の色彩表現と後半の心理表現を理解する。 4) 「絶句」を読み、感じたことや知ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・「絶句」は五言絶句であることを押さえる。 ・色の表現を通して、起句と承句が対句になっていることに気づかせる。
	家庭学習課題	「絶句」の書き下し文を、繰り返し音読する。	
4 11/29	「黄鶴楼にて孟浩然の広陵に之くを送る」に描かれている情景や作者の心情を捉える。	<本時のめあて> 李白「黄鶴楼にて…」を読み解こう 1) 文字数形式から、「黄鶴楼にて…」の構成を知る。 2) 書き下し文と解説文から、漢詩の内容を捉える。 3) 親友との別離や描かれている情景をとらえ、心情を想像する。 4) 「黄鶴楼…」を読み、感じたことや知ったことを発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・文字数に着目させ、「黄鶴楼にて…」は七言絶句であることを気づかせる。 ・親友との別離という内容を、どのように表現しているのか考えさせる。
	家庭学習課題	「黄鶴楼にて…」の書き下し文を、繰り返し音読する。	
5 12/06	三編の漢詩の訓読を通し、漢詩に歌われている情景や作者の心情への理解を深める。	<本時のめあて> 情景や心情を捉えながら、白文を訓読しよう 1) 三編の漢詩の白文に返り点や送り仮名を付け、訓読文を作る。 2) 訓読についての基本を確認しながら、訓読する。 3) 漢詩特有の言葉遣いやリズムに興味を持ち、訓読を楽しむ。 4) 漢詩に歌われている情景や作者の心情への理解を深め、今と昔に共通する人の思いに気づく。	<ul style="list-style-type: none"> ・白文に返り点や送り仮名を付け、訓読文にさせる。 ・漢詩のリズムを味わいながら、訓読に取り組ませる。 ・自分の体験を想起させる。 ・共感を抱く漢詩を通して、昔と今に共通する思いに気づかせ、考えを発表させる。